

「僕の名は？」

池田 隆

「記憶とは覚えおく事なり、覚え得ずして記憶を誓つ心の悲しさよ」

確定申告の二月がやってきた。私の場合、収入は公的年金のみ、控除金額も後期高齢者医療保険料と介護保険料のみで、作業は至って簡単である。昨年度と同じようにPC上でテンプレートを入力し、その出力シートを郵送すれば事は済む。ただ添付するために源泉徴収票とマイナンバーの通知カードを揃えなければならない。

通知カードは銀行カードや印鑑登録証と一緒に日ごろ使わない札入れへ大切に保管してある。おもむろに其処から取り出そうと、札入れを開くが見当らない。頭のなかは一変しパニック状態。

半日以上もかけ、あらゆる引き出しやファイルを隈なく調べ、机や書棚の裏側も覗くが徒労に終わる。再度札入れを確認するが、やはり無い。昨年度の確定申告以降に通知カードを使っていないか、確かめようと日記を捲り始めた。

すると確定申告を出した日に、「通知カードが見当たらず探し回った」と書いてある。さらに「引越しの際、紛れないように印鑑登録書のカードケースへ一緒に入れて置いた事を失念していた、今後はよく覚えておこう」との追記もある。

もしかと思い改めて札入れを開くと、ビニールケースにピッタリと入った分厚いプラスチック製の印鑑登録証の裏側に、なんとペラペラ紙の通知カードが挟んである。挟んだ事も、探し回った事も、日記に書き留めた事も記憶にない。その思い出せなかった事がショックで、冒頭の一文のような心境に陥った。

この際に役所手続きは面倒だが、厚くてしっかりしたマイナンバーカードを作っておくか。デジタル庁も新設され、世の中でマイナンバーが普及していきそうだ。やがて従来の氏名に代わり12桁の数字が各人の正式の「名」になるかもしれない。するとカードを常に携帯していないと、「僕の名は？」と戸惑いそうである。だが紛失もこれまた心配。πを「産医師異国に向う産後益なく…」と覚えたように、今から頭を捻ってみよう。